

第2章 農業の概況

「グ」国は基本的に農業国であり、1999年における農業の全GDPに占める割合は約25%、全雇用人口に占める農業従事者の割合は約49%に上る。また、「グ」国における土地活用状況で見ると、陸地の約43%が農用地である。「グ」国の主要食用作物である小麦及びトウモロコシは全国レベルで栽培されているが、小麦は東部、トウモロコシは黒海沿岸を中心とした平野部で特に栽培が盛んである。同じく主要食用作物であるジャガイモについては、主に南グルジアを中心とした山間部で栽培されている。

第1章で述べたように、「グ」国は気候の地域差が大きく、西部と東部で農業生産の環境は大きく異なり、西部は湿地、東部は乾燥地が中心である。両地域とも生産性向上のためには灌漑施設の充実が急がれるが、特に自給率の低い小麦の栽培が盛んな東部においては灌漑整備が必須である。しかしながら、旧ソ連時代に整備されていた灌漑施設は、ロシア崩壊後ほとんど機能しておらず、天水に頼るしかないのが現状である。2000年の旱魃による主要作物への被害は甚大で、主な小麦栽培地における耕作面積のうち約9割が被害を受け、被害総額はおよそ52百万ラリに上ったとの農業食糧省の報告である。

かつて「グ」国は旧ソ連計画経済の下で、茶・柑橘類・ブドウ等の農産物及びその加工品を多く輸出していたが、かつては主要輸出作物であったそれら農産物の耕作面積を減らし、穀物生産への転換を行うことにより「グ」国政府は主要食糧の増産を目指している。また、土壌自体の潜在的ポテンシャルは割合高いが、表2-1に示すように実際には近隣諸国及び西欧諸国と比べて主要食用作物の生産性は低い。

(単位:栽培面積(1,000ha)、生産量(1,000t)、収量(t/ha))

1999年	グルジア (冬/春)	アルメニア	アゼルバイ ジャン	ウズベキスタン	ウクライナ	ルーマニア	キルギス	西欧諸国	
小麦	栽培面積	107.2 / 4.0	112.0	423.9	1,419.9	5,931.6	1,665.1	482.7	17,240.3
	生産量	219.2 / 6.9	214.0	865.7	3,601.8	13,585.3	4,661.4	1,109.1	98,319.9
	収量	2.0 / 1.7	1.9	2.0	2.5	2.3	2.8	2.3	5.7
トウモロコシ	栽培面積	223.4	2.8	28.3	56.9	688.7	3,003.8	58.1	4,134.5
	生産量	490.5	11.4	100.2	167.9	1,736.9	10,934.8	308.3	37,719.8
	収量	2.2	4.1	3.5	3.0	2.5	3.6	5.3	9.1
ジャガイモ	栽培面積	34.1	31.7	37.9	48.5	1,551.1	272.9	64.0	1,435.0
	生産量	443.3	414.2	394.1	657.8	12,723.0	3,957.1	957.1	50,170.7
	収量	13.0	13.1	10.4	13.6	8.2	14.5	15.0	35.0

(出典(グルジアのみ): Statistical Yearbook of Georgia by State Department for Statistics of Georgia)

(出典(その他の諸国): FAO STAT)

表2-1 主要食用作物の生産状況

なお、平成13年度要請書によると、2000年度における対象作物の単位当たり収量は、旱魃の影響を受けてどの作物も減少し、小麦が1.05t/ha、トウモロコシが1.61t/ha、ジャガイモが8.9t/haである。

また、「グ」国も他の旧ソ連諸国と同様に土地私有化を進めているが、同国における農用地の土地私有化状況は、次頁表2-2のとおりで、永年作物や牧草地を含む農用地総計に対する私有地の割合は、2001年4月1日現在で約25%である。

(単位:1,000ha)

地域名	農用地総計		耕作地		永年作物		牧草地	
	合計	うち私有地	合計	うち私有地	合計	うち私有地	合計	うち私有地
グルジア全土	3,018.5	762.1	790.4	433.9	270.1	182.3	1,938.6	126.5
アブハジア	217.3	18.4	44.8	8.7	44.1	9.6	128.4	0.1
アジャリア	73.7	22.0	10.4	7.7	16.3	7.2	46.1	6.2
サメグレロ・セモ スバネティ	282.9	106.8	69.5	58.5	38.5	19.7	169.1	22.8
ケリア	73.1	42.4	22.4	18.1	24.8	19.7	25.1	3.8
イメレティ	215.6	109.3	85.4	73.8	29.6	23.6	97.7	9.0
ラチャレック・ミ& クハモ・カルトリ	153.5	34.9	8.7	8.7	3.4	3.4	141.4	22.8
シダ・カルトリ	226.3	80.2	79.6	41.0	37.8	36.4	107.6	1.5
ムツハタ・ムティアネティ	291.0	54.7	38.0	25.2	7.8	7.1	243.8	21.0
カヘチ	627.7	153.9	211.1	102.9	51.6	42.0	362.9	6.9
クハモ・カルトリ	399.2	67.5	135.3	47.0	13.1	10.5	247.6	6.8
サムツハ・ヤワヘティ	400.3	71.1	82.3	41.7	3.0	3.0	314.0	25.4
その他	57.9	0.9	2.9	0.6	0.1	0.1	54.9	0.2

(出典: Statistical Yearbook of Georgia by State Department for Statistics of Georgia)

表2-2 農用地における土地私有化状況(2001年4月1日現在)

「グ」国における主要食用作物の中で自給の達成が最も遅れている小麦について、表2-3にその需給事情を示す。国内生産量は毎年わずかながら増えているが(ただし2000年については旱魃の影響で減少)、需要を満たすには至っていない。

(単位:1,000tons)

年	在庫	生産	輸入	需要	輸出	バランス
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(a+b+c-d-e)
1995	105.2	76.5	708.5	800.0	0.0	90.2
1996	90.2	107.4	693.2	780.0	0.0	110.8
1997	110.8	291.7	475.0	750.0	0.0	127.5
1998	127.5	144.6	630.9	750.0	0.0	153.0
1999	153.0	226.1	515.9	750.0	0.0	145.0

(出典: Statistical Yearbook of Georgia by State Department for Statistics of Georgia)

表2-3 小麦の需給事情

「グ」国は、独立後食糧安全保障の観点から小麦の自給率向上、食用トウモロコシ及びジャガイモの完全自給を目指す農業政策を策定し、これに努めていることは既に述べたが、これら目標達成の障壁となっているのが、農業機械及び肥料をはじめとする農業資機材の不足、生産物の保存施設・輸送手段・市場の不備等の諸問題である。

農業機械については、旧ソ連邦時代に毎年2,000~3,000台という規模で更新されてきた大型トラクターも現在では老朽化し、絶対数が不足している。およそ10年前にロシアからの新規導入が途絶えた後、現在に至るまで2KRによる調達だけが唯一のインプットとなっている。次頁表2-4に「グ」国内で使用されている主な農業機械台数を、また次頁図2-1には農業企業体が所有する農業機械の台数を示す。

(単位:台)

	トラクター		コンバイン		トラック
	台数	耕作地1,000ha 当り台数	台数	耕作地1,000ha 当り台数	
1980年	24,900	32.0	1,500	4.7	23,900
1985年	28,800	37.0	1,300	4.7	26,300
1990年	23,100	29.0	1,300	5.0	18,900
1995年	15,600	20.0	1,000	3.0	12,600
1996年	15,300	20.0	1,000	3.6	12,300
1997年	12,000	15.0	1,000	3.5	10,000
1998年	10,700	13.0	900	1.4	8,800
1999年	8,200	10.0	900	1.5	7,100

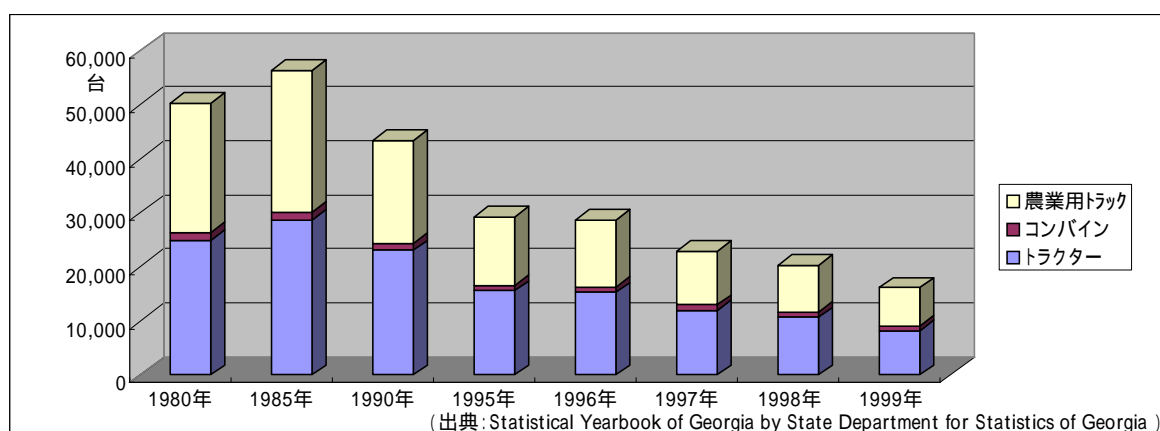
(出典: Statistical Yearbook of Georgia by State Department for Statistics of Georgia)

表2-4 主な農業機械の台数

図2-1 農業企業体所有の農業機械台数

肥料については、2KRでは平成8年度に調達実績があるものの、その後毎年要請は出されているが農業機械の優先順位が勝るため、調達されるに至っていない。国内需要としては

窒素系が最も高く、また国内生産*も行われている。ついで需要があるのはリン酸系、カリ系となっているが、これらは国内生産を行っておらず近隣諸国から輸入している。各肥料のうち、「グ」国内でよく用いられているのは、窒素系が硫酸、硝安、尿素で、リン酸系がTSP、SSPである（TSPについては平成8年度



に調達実績あり)。なお化成肥料については国内需要はあるが、国内生産は行われておらず、輸入実績もない。

農薬については、過去2KRで要請された実績は皆無であるが、「グ」国内では殺菌剤、殺虫剤、除草剤を使用しており、すべて輸入でまかなわれている。よく使われている品目は、殺菌剤では硫酸銅（商品名はBlue Vitriol）、殺菌剤はジメトエート（商品名はBI-58）及びラムダ-シハロトリン（商品名はKarate）である。

農業機械及び肥料といった生産向上に必要な資機材が不足している現状に対して、「グ」国家予算自体

* 国内生産を行っているルスタビ社では、2001年1月にロシアからの電力・ガス供給が停止したことが原因で、生産が一時中断される事態が発生し、平成11年度アルメニア2KRで調達予定であった硝安の調達スケジュールに支障を来した。このように「グ」国内の肥料生産はロシアからのエネルギー供給に大きく依存しており、生産は不安定要素を抱えている。

が極端に逼迫しており、農業開発計画の実施に必要な資金は日米を始めとする二国間援助又は国際機関からの支援に依存している状況である。特に農業機械そのものを調達する2KRのようなプログラムは他に存在せず、「グ」国の農業開発における我が国2KRの効果は非常に高く評価されている。